

## ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会総会（第2回）議事要旨

### 1 日 時

平成16年6月18日（金） 9時00分から10時30分

### 2 場 所

総務省7F 省議室

### 3 出席者（敬称略）

#### （1）構成員

村上輝康（座長）、伊丹敬之（座長代理）、荒井信幸、飯塚久夫、伊久美功一、井崎直次、伊藤泰彦、岩浪剛太、大谷和子、岡村久道、岸原孝昌、高橋利紀、高橋秀明、高橋秀夫、田島正広、田邊忠夫、徳田英幸、新美育文、原田修二（秋山正樹代理）、福井省三、舟本奨、古谷保（御手洗顕代理）、堀部政男、前田裕、三宅誠、村上篤道、守安隆、山口光雄、脇浜紀子、渡邊浩之

#### （2）総務省

鈴木政策統括官、松井総務審議官、鬼頭技術総括審議官、桜井審議官、吉崎総合政策課長、坂巻情報通信政策課長

### 4 議 題

#### （1）各WGにおけるこれまでの取組等について

事務局より「資料1 各WGにおけるこれまでの取組等」について報告があった。

#### （2）基本政策WG中間とりまとめについて

村上座長より「資料2 基本政策ワーキンググループ中間とりまとめ」「資料2-2 WG1における検討フロー」「資料2-3 ユビキタスネット社会で解決可能な課題（一覧表）」について報告があった。

#### （3）IT産業WG中間とりまとめについて

伊丹IT産業WG座長より「資料3 IT産業ワーキンググループ中間とりまとめ」について報告があった。

#### （4）利用環境WG中間とりまとめについて

堀部利用環境WG座長より「資料4 利用環境ワーキンググループ中間とりまとめ」について報告があった。

#### （5）中間とりまとめ案について

事務局より「資料5 中間とりまとめ（案）」に関して説明があり、各構成員より以下の意

見が出された。

ユビキタスネット社会の実現を目指したときに、ものの見方が目的指向型になり、ホリスティックな情報交換ができなくなるのではないか。また、ユビキタスネット社会においてコミュニティが活性化するのが疑問。

マイクロペイメントについてICT産業構造を示すレイヤー図の中に明示的に入れてもらいたい。

ネットワークの中でのコミュニティが現実の世界に与える影響の部分については今後基本政策WGの議論において取り扱っていきたい。

官民の役割分担をどうするのか、またそれぞれの産業ごとにどうやって目標を立てて取り組んでいくのが非常に重要な課題である。

課題の解決策についてはICTだけで解決できるわけではない。解決策は、様々な産業の組み合わせから進めるものであり総合的な視点で、ICTと何を組み合わせて進めればいいのか、その戦略をきちんと立てる事が必要である。例えば、複合的なプロジェクトをある特定エリアで実証実験を行い、その成果を横展する方法を検討する事も重要である。

ユビキタスネット社会の実現やそれが人々の幸せにつながるかどうかの最大の鍵は人間が握っている。このような認識を持ち、過度にバラ色の世界を描かずにできることがどのぐらいなのかを謙虚に考えることが特に必要である。

それぞれの問題に対して制度面もきちんと整備すべき。また、問題提起してきたことがどこまで実現したのか、しなかったのかを踏まえながら将来を展望していく必要がある。

問題の中には省庁の枠を超えて様々な協力体制がつけられないことには実現性・具体性のある政策にはならないものもある。その点を総務省側も強く認識して本腰を入れて取り組んでもらいたい。

#### (6) その他

各構成員より以下の意見が出された。

現在抱えている課題の解決と同時にニーズを取り込んでいく。そして、今後技術が進んだときにどのような問題が発生するのかを考えながら検討していくことが必要である。

ユビキタスネット社会の「影」の項目が同時に複合的に組み合わさった時にどれだけ大きな影響を与えるのかという点も視野に入れて検討すべき。

資料5の6ページに「オープンな次世代のICT基盤の早期の確立を図ること」とあるが、例えばオープンな技術とリスクの関係といった問題について利用環境WGでも分析して頂けるとよい。

ユビキタスネット社会での罪と罰のバランスのあり方といった100の課題の中から外に出てしまう問題についても視野に入れて検討すべき。

例えば個人のプライバシーなどのように個別に解決しないといけない問題、そして個別には問題でないが、例えば個人への非難の過剰な集中のようにユビキタスネット社会として生じるであろう全体性の問題等に分けて整理した方がよいのではないか。また、特にICT産業構造の部分では車でいうところのブレーキとエンジンというように二つの側面に分けて提示した方が、皆が安心した社会を期待できるのではないか。

ユビキタスネット社会でグローバル競争を勝ち抜いていくことができるような新しい競争政策についても議論すべき。

ユビキタスネット社会では、利用者はソリューションの受け手としてだけでなく、プロバイダとしての側面も持つ。そうした視点も踏まえて、利用環境を検討していくべきではないか。

解決策として規制を強めるのではなく、ポジティブな方向で議論を進行してほしい。

#### (7) 今後の取り扱い

必要な箇所は修正のうえ懇談会の中間とりまとめとして公表するが、そのプロセスは座長と事務局に一任することが構成員の皆様の了解を得て決定した。

以上